

第3回 犀川周辺エリア魅力向上整備基本計画検討委員会

【開催概要】

日時：令和7年12月23日（火）10:00～11:15

場所：金沢市役所第二本庁舎 3階 第2研修室

【議事要旨（意見交換）】

＜伊藤委員＞

- ・桜橋右岸下流河岸緑地（以下、「緑地」）の整備に関して、屋根付き休憩スペースの記載があるが、屋内空間はないという理解で良いか。
風もあるので壁の部分は必要かと思うが、奥まったところでもあり、できるだけ死角が少ない設計が望ましい。

＜丸谷委員長＞

- ・屋内空間は、資料で拠点施設と記載している部分である。屋内空間の整備とともに、それを覆うように屋根をかけ、雨天時でも活用できる空間を想定している。
伊藤委員のご指摘のとおり、安全性に考慮して設計を進めてほしい。

＜諸江委員＞

- ・緑地をエリアの拠点として整備するならば、夜間でもある程度明るさを確保する必要がある。河川との一体的な空間として拠点性や安全性を確保した場所として認知してもらうためにも重要と考えている。

＜事務局＞

- ・整備内容の詳細については、実施設計の段階で検討したいと考えているが、委員の指摘のとおり、夜間照明の設置による安全性の確保は必要であると認識している。

＜石川委員＞

- ・ゾーニングには、駐車場の記載がない。新堅消防分団は月に2回程度、3～4台ほどの車両を緑地に駐車しているが、整備後も駐車できるスペースは確保されるか。

＜丸谷委員長＞

- ・ゾーニングでは、車両動線を確保しつつ、主に多目的広場においてキッチンカー等が入ることができるかたちを想定している。その他の車両の駐車可否やスペースについては、実施設計の際に実際の活用を踏まえつつ検討できると良い。

<笠原委員>

- ・計画冊子案に「多様な主体との連携による魅力的なサービスの提供」とあるが、今後どのようなかたちでの連携促進を考えているのか。自身も学生団体に関わっており、犀川周辺エリアの活用に参画したい団体は他にも沢山いると思うので、広報の仕方も重要かと思う。

<丸谷委員長>

- ・これまでも、犀川利活用推進協議会が実施するサイガワリバーサイドアクトにおいて、学生や市民団体など多様な主体が参画・活用しており、整備後もこういった団体との連携が大切になると考えている。

<事務局>

- ・年間を通して活用される仕掛けが重要であると考えており、民間事業者からも提案を受けながら検討していきたい。また、旧新堅町小学校の跡地に地域力創造拠点を整備する方針であることから、これらの利活用に関わる方々とも連携を図っていきたい。

<丸谷委員長>

- ・当該緑地は賑わい創出のみならず、防災拠点としての整備も予定しており、地域住民が日常的に防災意識の向上に資する活動を行う場所である点も重要である。

<稲荷委員>

- ・緑地の運営にあたっては、災害や火災などの緊急時の対応も想定してもらえると地域住民の立場としても安心できる。

<丸谷委員長>

- ・大切な観点であり、次年度の実施設計の際には地域防災に関わる方々の意見も聞きながら詳細を検討できればよい。

<片桐委員>

- ・駐車スペースの点も含め、実際の活用に関わる方が、実施設計の段階からアイデアや実践をしながら検討に関わることができる「みんなでつくる」プロセスがこの緑地に関しては特に重要だと考えている。

旧新堅町小学校跡地の整備に関わる方々も含め、今回委員会で意見交換をしたような場を今後も作っていきながら整備に向けた検討を進めてほしい。

<丸谷委員長>

- ・多様な機能が入った施設を整備するには、設計時から多様な方々が様々な使い方を想定しながら検討に参画する必要があると考えている。そのようなプロセスを踏むことで、整備後に想定される様々な課題が設計段階で解消でき、整備後の利用促進にもつながってくる。

<伊藤委員>

- ・河川空間との連続性の確保については、具体的にどのようなかたちを考えているか。また、運営の観点になるが、イベント時以外でも椅子などの備品は出来る限り日常的に活用できる体制があると望ましいと思う。

<事務局>

- ・河川空間との連続性の確保については、直接下りられる階段の整備を想定している。今後、県とも協議しながら技術的に検証のうえ検討を進めたい。
- ・日常的な備品の貸出については、緑地の維持管理ができる団体に担ってもらうなど、整備とあわせて今後検討したいと考えている。

<伊藤委員>

- ・河川との連続性については階段を想定しているとのことであり、是非そのようにして頂きたい。その際は県で検証されているとは思いますが、安全性の確保を踏まえた検討をお願いしたい。
- ・備品の貸出などについては、具体的に「緑地を維持管理する団体が担うことも含め検討する」点を計画に記載すると良いのではないかと。

<丸谷委員長>

- ・河川敷に直接つながる階段が整備されると、アクセス性の向上と緑地の活用促進につながることを期待されるので、安全性を確保しつつ連続性を意識して設計を進められると良い。
- ・「誰が」備品の貸出等を担うかについては難しい課題と感じており、今後検討が必要である。
- ・計画の柱として3つの基本方針があり、各個別事業はそれらの方針に基づいて各担当課が整備検討を進めていくこととなる。計画の策定により、各整備の指針が定まることになると認識している。

<稲荷委員>

- ・ 前回も申し上げたが、堤防が築 60 年以上経過している箇所がある。堤防の一部が鉄筋コンクリートではなく、レンガ造りになっている箇所もあるとも聞いている。全て確認することは困難だと思うが、今回のエリアを中心に堤防の調査を行い、安全な箇所や脆弱な箇所を把握してもらえると地域住民の安心にもつながる。

<県央土木総合事務所>

- ・ 以前も回答したとおり、全ての構造物を予防的に調査・維持管理することは難しく、水門などの重要構造物について優先的に予防保全を実施している。また、堤防・護岸については、洪水時に水漏れが確認されるなど、支障が出た箇所から補修・修繕を実施している。当該エリアに関しても今後も多くの方の利用が想定されるエリアであることから、異変のある箇所を発見した際は、地元からの要望として県央土木総合事務所まで連絡いただければ速やかに補修等の対応をとっていきたい。

<稲荷委員>

- ・ 日常の点検・補修等について適切に対応頂いていることは承知しているが、内部構造については日常点検の範囲では把握できないのではないかと考えている。費用もかかると思うが、例えば一定の範囲を区切って調査するなど検討いただけると有難い。

<県央土木総合事務所>

- ・ 例えば堤防から水が噴き出している箇所があった場合は、その原因を追究したうえで質的改良を実施し堤防の決壊防止等に資する工事を行うケースがあるが、現時点で実際の被害等が出ていない場合にはそのような対応を行うことも難しい。あくまでも異変が疑われる事象があった場合に関連調査と必要な対策をとっていくかたちになる。

<丸谷委員長>

- ・ 地域住民が日頃から河川空間を活用し川に親しむ中で、堤防などの周辺構造物の異変や違和感に気づけることが大切と考えており、そういった場合の連絡体制が整っていると良いのではないかと。
- ・ 計画冊子案にある計画策定の目的について、9行にわたる文章が1文となっているため、途中で文章を分けるなど工夫してほしい。

<笠原委員>

- ・ 計画冊子案の計画対象範囲について、整備を進めることで、周辺地域へ回遊性向上や賑わいが波及するとあるがその様子がイメージしにくい。

- ・今年度のサイガワリバーサイドアクトの成果として、ケサランパサランを主目的に訪れた方々が副次的に犀川の魅力を感じてもらえた点は良かった。今後の整備により犀川そのものの魅力を高めつつ、別のアクティビティへの参加などをきっかけに犀川の魅力に気づく人を増やしていくような仕掛けを継続することが大切かと思う。

<丸谷委員長>

- ・整備を行う範囲として、計画に対象範囲を定めることは必要であると感じている。計画冊子案に記載しているように、民間活力等を生かしていかに周辺に賑わいをもたらす活用や仕掛けが作り出せるかが重要だろう。

<甚田委員>

- ・サイガワリバーサイドアクトでは、これまでもヨガや生きもの観察会など様々な利活用を進めており、様々なノウハウをもった団体が犀川をフィールドに活動を展開している様子はとても良いと感じている。また、活用にあわせて県のハード整備も進んでおり、今回緑地が新たに整備されることも歓迎している。
- ・特に緑地においては、今年度のサイガワリバーサイドアクトでケサランパサランの出店があったが、富山県の環水公園の例にあるように、常設されたカフェ空間があると人の動きが大きく変わらなると思っている。また、旧新堅町小学校跡地に整備される拠点に関係する方々とも連携することで、点と点が線になり波及効果も期待できるのではないか。
- ・整備が進むと上流のいしかわ子ども交流センターなど犀川の横のつながりも増えることから、まちなかにおいて21世紀美術館等の縦の導線に対する横の導線としてエリア全体で賑わいを生み出し、犀川の利活用促進につながることを期待できる。
- ・河川敷の範囲や様々な制約の中でできること・できないことは模索する必要があるが、今回の計画策定を契機として、地域として引き続き賑わい創出に向け取り組んでいきたいと考えている。また稲荷委員の指摘にあった堤防の安全検証については、これまでも必要に応じて県に相談してきており、今後も協力をお願いしたい。

<片桐委員>

- ・計画の対象範囲に記載する「波及」については、「地域の動きと連動」や「相乗的に」といった表現が伝わりやすいのではないか。
- ・堤防の構造については、今後予定されている整備にあわせてできる範囲で現状確認を行ってはどうか。そういった情報を地域住民と共有することで、地域の安心につながると思う。

<諸江委員>

- ・ 犀川大橋の照明については、警察との協議のうえ様々な色に変えられるようにしており、今後もイベント等にあわせてライトアップを実施していく予定である。犀川周辺エリアにおいてライトアップのような仕掛けは非常に合うと感じており、歩行環境としての安全確保も踏まえつつ、夕暮れや夜間も安心してそぞろ歩きができるようなライトアップを行うことで、エリア全体でまちの魅力を高める仕掛けがつけられるのではないか。

<伊藤委員>

- ・ かわとまちのつながりを考えるうえで、川沿いに飲食店等が出店する際には犀川を意識したつくりにすることが大切かと思う。長期的には、沿川のステークホルダーとの連携を構築していけるとよい。現段階で計画に記載することは難しいと思うが、イメージパースも載せているので、長期的にめざすまちのあり方や方向性の一つとして位置付けられると良いのではないかな。

<片桐委員>

- ・ 川沿いには、犀川を臨めるレイアウトを採用するなど川を意識している店舗がある一方、静かに暮らしている地域住民もいる。実際に歩くと夜間は暗くて危ないと感じることもあるので、犀星のみちのライトアップ検討にあたっては、周辺飲食店や地域住民と連携し、エリアの魅力創出と安心安全な暮らしの調和を図りながら通りのあり方を考えていけると良いのではないかな。

<甚田委員>

- ・ 北陸新幹線開業後、多くの簡易宿所が進出していることが新聞等でも報じられており、このエリアにおいても、将来的に歩行環境などが整い魅力が高まることで進出したいと感じる事業者もいるだろう。過去には、地域内で風営法違反により事業者が摘発された事例もあり、今後地域住民の生活環境に影響を及ぼす懸念もあることから、必要に応じてまちづくり協定を締結するなど、地域として対応を検討していきたいと考えている。

<丸谷委員長>

- ・ 計画の方向性について、大きな変更はないと思うが、今回の議論を踏まえて文章等を見直したい。今後の計画の見直しについては委員長に一任するかたちでよいか。
⇒一同、了承。

—以上—